博士課程教育リーディングプログラム　事後評価結果

機　　関　　名	慶應義塾大学	整理番号	A03
プログラム名称	超成熟社会発展のサイエンス		
プログラム責任者	青山　藤詞郎	プログラムコーディネーター	神成　文彦

博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価

［総括評価］

計画どおりの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。

［コメント］

リーダーを養成するための学位プログラム、体制等の構築については、主専攻と副専攻の２つの修士課程（主専攻、副専攻（文理融合））と主専攻の博士課程からなる MMD 教育システムの導入により、文理融合の効果的な学位プログラムが構築され、また、産業界及び自治体からのシニアメンターが指導するグループプロジェクト演習では、超成熟社会が直面する様々な課題を学生が自ら設定して取り組む体制が構築されていることから、いずれについても高い教育効果が得られている。さらに、国際性の涵養のために短期海外留学制度を設け、留学先の指導教員を博士論文審査員にすることにより、確実な教育審査体制が構築されている。このことから、本プログラムはグローバルリーダー養成に向けた所期の計画を達成していると評価できる。なお、学生の充足率が当初の計画よりも低いままであった点については、本プログラムの定着に向けて優れた学生を更に増やす方策の検討が期待される。また、理系学生の比率がやや高い点についても、今後文系学生を増やしていくことにより、学生間の文理融合効果が高められると考えられる。

修了者の成長とキャリアパスの構築については、産業界や中央省庁等の幅広い分野に就職し、特に理系学生は研究開発以外のキャリアパスにつながっている点は評価できる。また、文系学生の中に学位早期取得を実現させている例が見られることは高く評価できる。さらに、主専攻を文系から理系へ変更している学生が見られることから、本プログラムの文理融合の理念が浸透していることが看取され、更なる修了者のキャリアパスが広がることが期待される。国際機関への人材輩出がみられない点についても、今後一層の努力が期待される。

事業の定着・発展については、支援期間終了後も大学独自の資金により、本プログラムの継続が決定されていることから大いに期待される。さらに、e-ポートフォリオを活用して、修了者から長期にわたり状況報告を受けることにより、将来にわたって成長・キャリアパスの変化が追跡できるシステムが構築されていることは高く評価できる。